

基幹産業である自動車関連を中心とした海外生産の拡大などで静岡県経済は空洞化の懸念が広がる。そのなかで、今後の成長が見込める航空と医療への注目度が高まっている。板金加工の岩倉溶接工業所（島田市、岩倉正雄社長）は小所帯ながら、技術力と積極的な営業活動を通じて2分野への同時参入に挑む。

「岩倉さん、今回はどんな技術ができたの」。県外の展示会では顔見知り相次いで岩倉溶接のブースに立ち寄る。同社は全国各地の展示会や商談会に月一度のペースで参加。中小企業同士の研究会にも加わっており、岩倉社長は頻繁に県外へ

岩倉溶接工業所

派実たくは 発おかぎ

《会社概要》

▽所在地	島田市東町2093の1
▽事業内容	ステンレス板金加工 や金属溶接
▽設立	1985年
▽従業員数	13人

出かける。同社は工場などで部品や設備を洗う産業用洗浄機のステンレス加工が主力。しかし、リーマン・ショック後は得意先の海外への生産移管で受注が大きく落ち込んだ。

そのなかにあつて、「他社が受けない、できないようなことをやる」として、難しい仕事を積極的に引き受け、溶接やレーザー加工で技術力を高めた。展示会の会場でもチタンなど加工が難しい素材の溶接物などを展示して技術力をアピールする。

昨年、愛知で開かれた航空・宇宙産業の展示会では特別にステンレス製の航空機模型を作った。機体のなめらかな曲線やエンジンの外観も再現。多くの人が興味を示し、「この模型の見積もりを出せないか」という依頼

航空・医療、技術で挑む



岩倉社長がバイオリンの航空機とモデルについて説明する

までできたという。航空機分野参入のきっかけも、3年前に大阪で参加した見本市だった。会場で話した人から「この技術力なら航空機分野に生かせる」とアドバイスを受けた。岩倉社長はまず、浜松商工会議所内の中小企業50社が参加する航空機分野の研究会に

入った。研究会の中で共同受注組織を作る話が出ると直ちに参加。協力して営業活動やノウハウを学び、生産管理に関する国際規格を取得した。今では単独でも大手メーカーから部品加工の依頼を受け、受注に向けた手続きを進めている。これは別の素材加工の研究会で知り合った県西部の3社とも昨年、医療機器の受注組織を設立した。「県内の優れた素材加工技術を持ち寄れば、使いやすい優れた機器ができる」。早速、手

術で使うステンレス器具の注文が来ているという。航空機と医療の2分野は「まだ種まきの段階」。本格的な生産に乗り出すために本社近くの土地を取得し、生産管理に適した環境の工場棟を建てた計画だ。将来は溶接、レーザー加工、航空・医療分野の3本柱で成長を目指す。

静岡支局 0554-2553-71991
浜松支局 053-452-8593